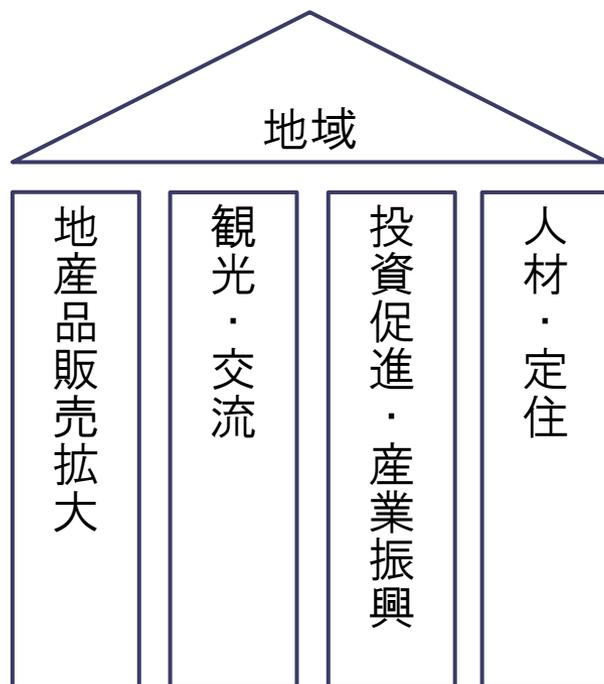


第2回京橋しゃべり場 資料

—京橋地域活性化—

大京商事株式会社 専務取締役 鷺見

一般的な地域活性化手法



出典（地域ブランド関連施策の現状と課題）

【地産品販売拡大】
伝統工芸品などを中心とした地域特有の地産品をブランド化させる。地方都市に多い手法。

【観光・交流】
観光名所等を利用し観光産業の拡大を図る。地域資源の見直しが必要。

【投資促進・産業振興】
個別のテーマを強調した形で内外からの投資を呼び込む。地域ブランド形成。

【人材・定住】
地域の魅力を向上させることによって外部からの転入者を誘致し定住人口の増加を図る。

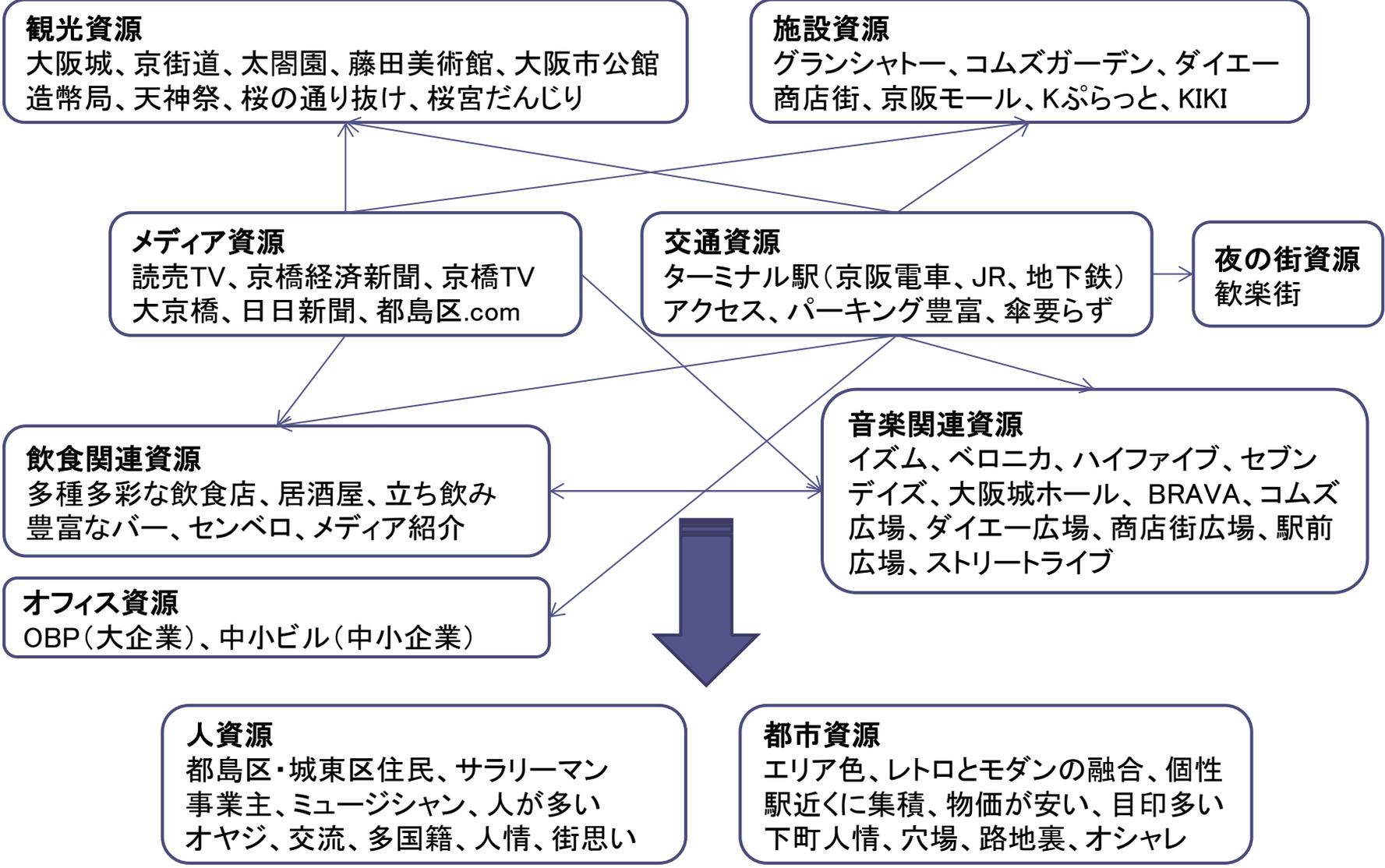
地域資源分析

外部環境分析

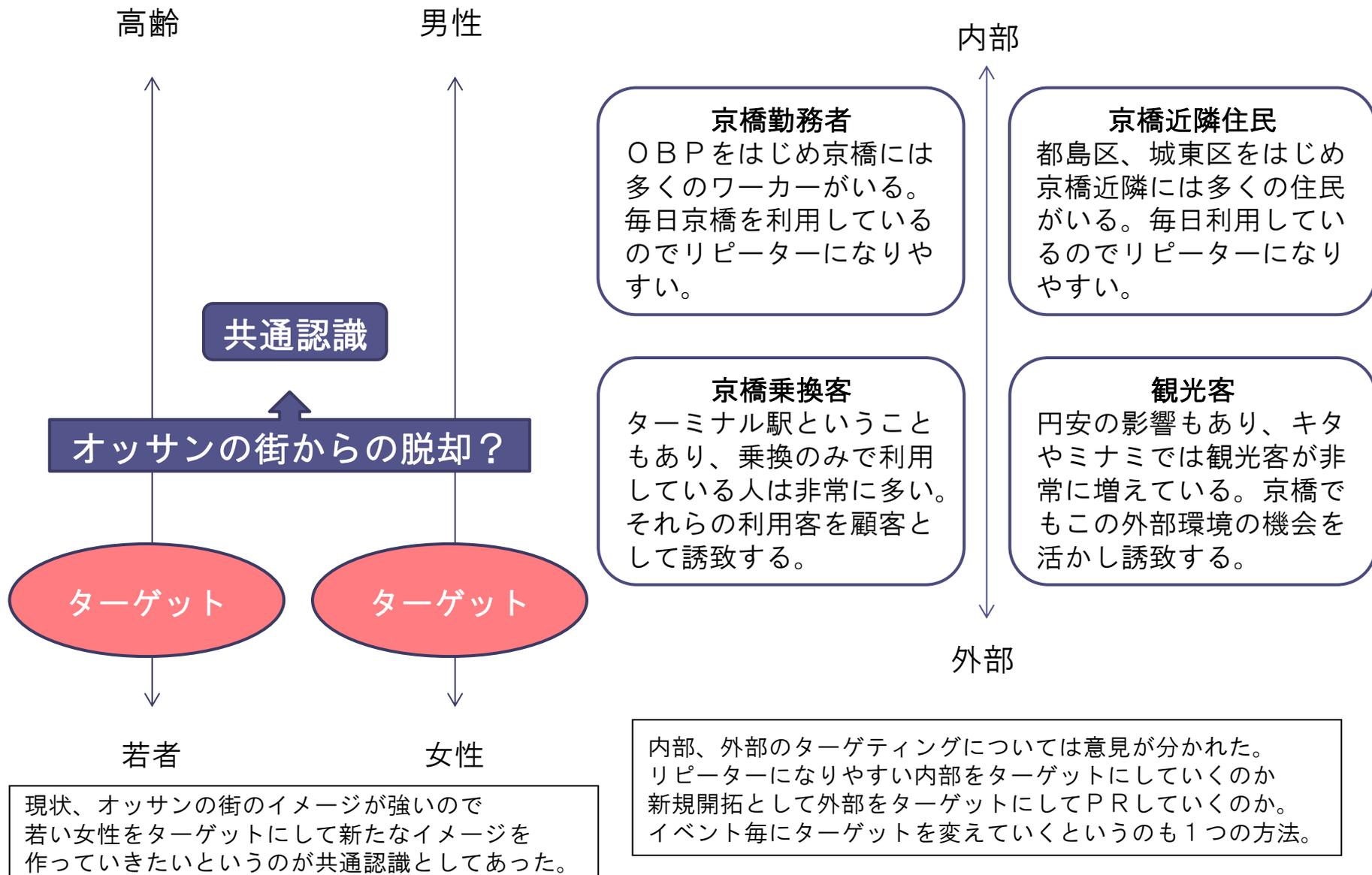
【目的の明確化】
どのような手法によって地域活性化を行うのか？

地域活性化
戦略

第0回京橋しゃべり場「地域資源分析」



第1回京橋しゃべり場「ターゲティング」



第1回京橋しゃべり場「天満視察ツアー」

京橋と同じくオッサンの街のイメージが強い天満。近年、その天満が若者ウケの街に変貌を遂げようとしている。その真偽を確かめる為に視察を行うことになった。

JR天満駅の概要

天神橋筋商店街や天満市場の最寄り駅である。接続する鉄道路線として、地下鉄堺筋線扇町駅（徒歩5分）のほか、阪急千里線・地下鉄谷町線天神橋筋六丁目駅（天六駅、徒歩10分）も比較的近い。

要因情報（事前調査）

- 1、NHKドラマ「ごちそうさん」での知名度UP
- 2、大規模マンション建築による住民流入
- 3、ぷららてんま建設による天満市場変貌
- 4、卸の強みを活かした飲食店集積「裏天満」
- 5、ビニールシート通り「ビニシー通り」
- 6、「大阪くらしの今昔館」の観光誘致

活気・エンタメ性・多様性・解放感・イメージ戦略

「楽しい！」を生み出している



第2回京橋しゃべり場「プロジェクト企画」

京橋で過去にあった企画

- ・ センベロ
- ・ 京橋バル
- ・ 一食即発
- ・ ストリートライブ
- ・ ビギン寄席
- ・ こいや祭り
- ・ ギャルみこし
- ・ 天神祭
- ・ . . . etc

他の街で過去にあった企画

ターゲット層（若者）を呼び寄せる「企画」とは？

第2回京橋しゃべり場「プロジェクト企画」

地域ブランド戦略の目標設定
(何度でもやり直しOK)



「メディアが何で動くか」を考える

「社会性」＋「本能と五感」に響く

「旬」なもの タイムリー性

ニュース性 (なぜ今報道するのか)

殿村美樹

殿村 美樹(とのむら みぎ、1961年-)は、日本の実業家、PR専門家、株式会社TMオフィス代表取締役。地方や伝統文化、中小企業を活性化する独自の手法で、関西を中心に多数の自治体関係のPR業務を手がける^[1]。

目次 [非表示]

- 1 来歴・人物
- 2 主なメディア出演
- 3 著書
- 4 主な執筆
- 5 出典・脚注
- 6 外部リンク



来歴・人物 [編集]

1961年京都府宇治市生まれ^[2]。地方や中小企業、伝統文化の活性化を得意とし、独自のPR戦略法を確立。著書や講演などで全国普及を行っている。PR戦略の主な実績は「今年の漢字」プロデュースをはじめ「佐世保バーガー」「さぬきうどん観光」「ひこにゃん」「うどん県」の全国PR戦略等がある^{[3][4][5][6][7]}。

主なメディア出演 [編集]

- TBS「がちりマンデー!!」(2007年10月7日)
- TBS「みのもんたの朝ズバッ!」ゲストコメンテーター(2011年6月1日)
- 日本経済新聞フォーカス(2012年1月30日)
- NHK「ドラクワ」思わぬことで人生が変わったスペシャル(2012年2月3日)
- 週刊エコノミスト ワイドインタビュー 問答有用(2012年6月25日)
- ABC「キャスト」「ブームの仕掛け人がホントすごいんです」(2012年7月11日)
- 関西テレビ「スーパーニュースアンカー」密着取材!ご当地PRなう(2012年5月15日)
- フジテレビ「新・週刊テレビ批評」「変化する地方自治体のメディア戦略」(2012年9月22日)
- TBS「有田とマツコと男と女」「年商千億の社長軍団vsニート」(2013年1月2日)
- 日本テレビ「心ゆさぶれ!先輩ROCKYOU」「心ゆさぶるトゥルーストーリー」今年の漢字誕生秘話 / 殿村美樹(2013年2月23日)
- 朝日新聞 全国経済面 地域発企業発(2013年4月9日)
- 日本経済新聞 自虐PR 地域に光(2013年5月6日)
- TBS「ひるおび!」地域再生のプロとしてコメント出演(2013年6月5日)
- テレビ東京「ソロモン流」賢人・殿村美樹(2013年7月7日)
- 読売テレビ「ten×選挙×社長」関西名物社長として出演(2013年7月21日)

第2回京橋しゃべり場「プロジェクト企画」

ぶらりと楽しむ

丁=人が行き交う・出会う

大阪文化の継承「京橋ぶらり横丁」

(京橋商店街エリア) SWOT分析

強み

(五感と本能に響く)

- ・ターミナル駅
- ・通行量の多さ
- ・立ち飲み・飲食店
- ・下町風情
- ・大京橋Information

弱み

- ・雑多感
- ・キャッチ
- ・はみ出し店舗規制
- ・放置自転車

強みに転換

機会

(今の時代の旬は)

- ・梅田ぶらり横丁の消滅
- ・惜しむ人の行き場
- ・消滅のニュース報道

脅威

- ・梅田や天満の台頭
- ・客層の高齢化

機会に転換

ストーリーを構成する (5W1H)

Who (誰)

ぶらり横丁を惜しむ潜在顧客

When (いつ)

ぶらり横丁消滅を機に

What (何を)

大阪文化のぶらり横丁を

Where (どこで)

京橋商店街エリアで

Why (なぜ)

大阪文化を楽しむ為に

How (どのように)

京橋ぶらり横丁のブランド化
京橋ビール等の共感アイテム

第2回京橋しゃべり場「プロジェクト企画」

サラリーマン憩いの場・大阪駅前「ぶらり横丁」 地下道拡幅…
「寂しいけど」去るか「生活のため」残るか

ツイート 6 おすすめ 37 8+1 0

大阪・梅田の「大阪駅前地下道」（大阪市北区、約220メートル）の拡幅工事に伴い、大阪市が地下道で営業する各業者に出していた土地の占用許可が30日、期限を迎えた。老舗古書店が閉店する一方で、サラリーマンらに親しまれてきた飲食店街「ぶらり横丁^{10+件}」などの一部店舗は「市から納得できる説明を受けていない」と立ち退きを拒否、10月以降も営業を続ける構えをみせる。市は「不法占拠に当たる」として行政代執行などの法的措置を検討する。

この日午後7時過ぎ。戦後から66年間営業してきた古書店「萬字屋書店」のシャッターが下ろされた。

「仕方がないとはいえ、寂しいね」。店主の小林伸光さん（62）はそう漏らした。父の秀雄さんが創業し、昭和23年に地上から今の場所に移転。常連客で当時毎日新聞記者だった作家、井上靖さんが場所を紹介してくれたという。



常連客らでにぎわう串カツ店「松葉」=30日午後、大阪市北区（村本聡撮影）



開催日程とテーマについて

- 第0回 3月20日 基礎調査（地域資源分析）
○京橋の地域資源をみんなで考えよう
- 第1回 4月17日 基礎調査（ターゲティング）
○どんな人が利用してる？ どんな人を呼び込むのか？
- 第2回 5月15日 プロジェクト企画
○どのような企画をすればターゲットを呼べるのか？
- 第3回 6月19日
- 第4回 7月17日
- 第5回 8月21日

テーマは進行次第で